◇巻頭言◇

函館山に思う

会長　橋田恭一（昭和39年卒）

「ゼミの仲間と登ってさぁ、帰り大門附近で一杯飲んだなぁ…」。としみじみと語る言葉に大学時代の熱き想いがほとばしり出る。人は誰しも若かりし頃の思い出を話す時、優しい眼差しになり顔の表情が和む。

二年前から夕陽会会長として全国・全道各支部の総会に出席する機会が多い。懇親会になり座が和らぐと学生時代の思い出話となる。お世話になった教官、仲間とのやりとり、活動費の捻出に苦労しながら続けたサークル活動などなど。そんな時、函館山に登ったことが話題になることが多々ある。

本州各地から函館にやってきた仲間は、ＪＲ海峡線で木古内町を通過すると、函館湾沿いに次第に函館山が近づくのを確認したはずだ。それ以前は青函連絡船が一味違う味わいを与えてくれた。陸奥湾を抜け、海峡に差し掛かると遠く函館山を確認できる。「よしまたがんばろう！」思いは各人各様。船旅は気持ちの持ちようもゆったりとしたものであったろう。

一方、道内の仲間たちは仁山の駅を過ぎると函館山を確認できる。初めて親元と離れ函館の地で学生生活を迎えようとした時、函館山を望み、どんな思いを抱いたのであろうか。そして今、冒頭のつぶやきは二ないし四年間の函館での生活が心と体に大いなる滋養となって結実したことの証明である。人は、生活の拠点となるところに帰ってきた時に様々な景観からそれを感じ取り、明日の生活の決意を固めていく。

私にとって函館山は、生まれ育った函館を彩る観光名所のひとつ、とりたてて思いを強くすることもなく過してきた。ところが二年前から私にとって函館山は生活を見つめ直す存在となった。

人は日常生活に多少時間的余裕が生じると余暇の善用を考える。ある人は、旅行であり、絵画や彫塑の制作であり、晴耕雨読の日々であったり、はたまたスポーツジムに通い健康維持に努めるなど、生活スタイルはバラエティに富む。

私は、元来、体を動かすことの大好き人間。教職時代からジョギングやウォーキングを継続してきた。そんな折、同期のＹさんから、歩くなら斜度のあった方が、加えて脚力をつけるために自転車がいいとの勧めである。両方の願いを満たすために自宅から自転車で函館山の麓まで、そして、徒歩で山頂へ、往復三時間余り。効果の程はいうまでもない。

このように函館山が身近な存在になろうとは予想外であった。山は一歩踏み込むと四季折々の表情が豊かである。雪が解ける春四月、草木が芽吹き生命が躍動する。灼熱の夏、緑のトンネルを抜けると一気に汗が噴出す。喉を潤す水分が五臓六腑に染み渡る。そして、秋、澄みわたった青空の下、海峡の対岸がくっきりと間近に迫る。自然の営みに気持ちが癒される。

そんな思いを抱きながら山道を一歩一歩積み上げるように登っていると、人生にとって一番大切なことを教えてもらっている気がする。自分の身体を自分の足で支えて歩くことはすべての基本。人生の後半を健康で楽しむためにも、他の多くの山にも挑戦したいと思っている。

こんな話をすると私のレベルに合わせて様々な山を紹介してくださる仲間がいる。夕陽会のネットワークは多岐に亘っているのだ。有難きかな同窓会。「明日の天気はどうかな」とちょっぴり気になる今日この頃である。

・大懇親会

於　函館国際ホテル

全国支部長会議

顧問・参与会

六月四日（金）函館国際ホテルにおいて、第四回役員会に引き続き、多数の顧問・参与の皆様の参加を得て顧問・参与会が開催された。

冒頭、「母校が新しく生まれ変わり、教員の会員から民間への会員が増加してきている中で、夕陽会の活動強化を進め、将来へ希望を持ち、新しい発想で新しい道を切り拓いて行きたい」との橋田会長の挨拶で会は始まった。

中瀬副会長の議事進行で報告協議が行われた。

総会議案審議では、二十二年度の活動に関わって、特に、名簿作成のための取り組み、民間の会員の拡大について話し合いがなされた。二十二年度運営方針・推進事項、特に夕陽会組織の強化と運営の効率化と母校への支援について力点を置くこととなった。

最後に役員改選について協議し、この会を終えた。

全国支部長会議

夕陽会総会に先立って午後一時三十分より、二十八支部の代表の参加を得て、全国支部長会議が開催された。

楢山庶務部長の司会進行で、尾畠・中瀬両副会長を議長に議事が進められた。

母校の現状、各支部の取り組み等の報告や二十二年度運営方針、予算等の協議事項について話し合われた。

各支部からは、夕陽会が高評価されていること、教職についていない会員の確保や若手会員の会の結成、会費納入率の減についてなどの報告があった。

運営方針並びに推進事項では、「創造し、行動する夕陽会」をモットーに、①財政基盤の確立と会費納入の促進を目指す。②人材の育成と会員の資質向上③組織強化と運営の効率化④母校への支援と地域への貢献⑤夕陽記念館の整備・活用について話された。

総会運営について拍手で承認され、この会を終えた。

総会・大懇親会

社会や時代の要請に応えて

平成二十二年度 夕陽会総会

（平成二十二年度の夕陽会総会は、六月十九日（土）函館国際ホテルにおいて開催された。審議に先立ち挨拶に立った橋田会長は、冒頭で創立百周年まであと八年、新しい時代を迎える事に対する期待感を述べた後、「平成十八年度の学部再編から五年目を迎え、今春初の新課程の卒業生を送り出した。教職以外の職に就く者も多くなり、組織の強化が重要課題である。本会としては、今後も教職希望者の支援の継続と、会員確保を図っていかなければならない。課題は山積しているが、あればあるほど元気になるのが夕陽会である。会員一丸となり夕陽会の目的達成、および会の充実・発展のため鋭意努力していこう。」と締めくくった。

次に、議長として小林基英氏（渡島）池田忠喜氏（宗谷）島津彰氏（特支）を選出し、役員選考委員・議事録署名人等を確認した後、議事及び別室にて役員選考の協議に入った。

報告事項では、土谷幹事長より平成二十一年度会務・事業報告が行われ、各地区での教採対策講座・夕陽記念館写生会の開催、函館校との学部化構想に係る懇談会の実施、新入会員の加入状況等が報告された。続いて、溝口財政部長より①通常会費会計②基本金会計③教育支援基金会計の三会計について一括して報告があり、五百川監査からはすべて適正に処理されている旨の監査報告があった。

母校関係では、教職大学院の二十三年度開設予定、卒業生の就職状況、教採対策への支援、夕陽記念館の有効利用等が報告され、すべての報告事項が拍手をもって承認された。

協議事項については、はじめに土谷幹事長より平成二十二年度の運営方針並びに推進事項の提案があった。「創造し行動する夕陽会」をモットーに次の六点を推進事項とし、本年度も重点項目（※印が重点項目）を明らかにして活動することが提案された。

①組織強化と運営の効率化

※教職外会員の組織強化および高等学校支部、特別支援学校支部の強化

※女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画

②人材の育成

※会員である道・市町村議会議員、首長、教育行政管理職等との連携

③財政の確立

※財政基盤の確立と諸会費納入の促進

④研究・研修の奨励と文化事業の推進

⑤母校への支援と地域貢献

※就職対策関係事業への支援

⑥夕陽記念館の整備活用

次に溝口財政部長より平成二十二年度予算案が提案され、いづれも原案通り承認された。

また、本年度は役員改選期であり、新役員は次の通りである。

○会長　青柳　史匡（昭42年卒）
○副会長　藤川　隆（昭48年卒）
○副会長　玉手　道男（昭48年卒）
○副会長　中谷　匡利（昭42年卒）
○副会長　天野　哲征（昭41年卒）
○副会長　杉本　征年（昭40年卒）
○副会長　繪面　和子（昭36年卒）
○副会長　橋田　恭一（昭36年卒）
○副会長　中瀬　哲征（昭41年卒）
○副会長　尾畠　利（昭42年卒）
○副会長　川崎　隆（昭48年卒）
○副会長　手道　男（昭48年卒）

平成22年度 夕陽会総会

平成22年６月19日（土）

○副会長　能戸　誠一（昭48年卒）
○副会長　山北　実（昭48年卒）
○副会長　黒田　信彦（昭50年卒）
○監　査　五百川　忠（昭32年卒）
○監　査　笹原　志郎（昭38年卒）
○監　査　森下　英治（昭39年卒）
○幹事長　土谷　敬（昭54年卒）
○副幹事長　楢山　聡（昭60年卒）
○副幹事長　奥崎　敏之（昭60年卒）
○副幹事長　平田新次郎（昭62年卒）
（昭和58年卒・柏野小教頭・神博之記）

総　会

会場には大きな拍手が鳴り響きました。

続いて能戸誠一本部副会長が開会を宣言し本年度の大懇親会が始まりました。

いよいよ恒例の「夕陽讃歌」の斉唱です。本年度は函館市立亀田小学校の川股己育先生（平成六年卒）が指揮を担当。参加者全員の母校に対する思いを込めた「夕陽讃歌」が会場いっぱいに響きわたりました。

会長挨拶で、橋田恭一会長は、総会で引き続き二期目二年間の会長に決まったことを報告したあと「時代の流れの中で母校も大きく様相を変えてきた。この変化の中でわが夕陽会も不断に自己変革をしていかなければならない。職種を越え、同窓としての結びつきを強める会にしてほしい。夢と希望を語りながら杯を重ねよう。」と抱負を語られました。

来賓挨拶では、はじめに西尾正範函館市長より「栄枯盛衰が世の常だが、いつの世でも教育による人材育成は肝要。子どもを育てることが明日を創る。夕陽会には若手会員を育成し、函館をふるさとして、函館の街の大いなる原動力となる人材の育成をお願いしたい。」と期待のお言葉がありました。

次に挨拶に立った和田基興北海道教育庁渡島教育局長からも、「渡島の教育が安定から充実へと向かい、地域住民に信頼を得ているのには夕陽会のお力が大きい。また他の分野でも様々に活躍されていることに敬意を表したい。今後も創造し行動する夕陽会として変革期の中で活躍してほしい。」と期待のお言葉がありました。

最後に本年度より北海道教育大学副学長（函館校担当）に就任された鴈澤好博氏が壇に立たれ、夕陽記念館のリニューアルに対する謝辞を述べられたあと「函館校の百年にならんとする伝統を学生に伝えていきたい。夕陽会も土地懇闘・人民蕃殖の精神を二十一世紀にふさわしい形のメッセージとして伝えてほしい。」と述べられ、終わりに、将来的に函館校の複数学部制をめざしていきたいと抱負を語られました。

次に田中健一渡島教育委員会教育長会会長の「押忍の心を大切にしていこう。」とのご発声で祝宴が幕を開けました。

今年も会場内は各卒業年次毎の席で、互いに若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代に戻ったように語り合う姿が見られ、夕陽会大懇親会ならではの熱気溢れる雰囲気に包まれました。

その後、恒例の新入会員の紹介があり、さらに今年度教職外から参加された四番テーブルの十名の公務員・民間企業会員が紹介され大きな拍手がわきました。道幸拓志長万部町教育委員会教育長からは、新会員と教職外会員へ期待と励ましの言葉が送られました。今後ますます各界から多くの会員の方々が参加してくださることを期待したいものです。

宴も佳境に入り、恒例のエールを宮本暁弘先生（平成十四年卒）の打ち鳴らす太鼓に合わせて、登壇した西村祐紀先生（平十八年卒）が熱演、会場全体が大いに沸きかえりました。いよいよ閉会が近づく中、トリを飾る寮歌の大合唱が始まりました。諸先輩方が背に「夕陽」の揃いの法被姿で登壇すると、会場の雰囲気はさらに盛り上がり、小林周次先生の音頭で、母校に対する思いを込めた歌声が会場全体を揺らすように響き渡りました。余韻が覚めぬ中、乾杯の時間となり安島進顧問が乾杯の音頭を取り、最後に玉手道男副会長が閉会を宣言し、本年度の夕陽会大懇親会も盛会のうちに終了しました。

来年度はいよいよ十年ぶりに道都札幌市において、大懇親会が開催されます。平成二十三年六月十八日は札幌支部の皆さんにお世話になりながら全国の会員諸氏がこぞって札幌パークホテルに集い同窓の輪をひろげようではありませんか。

（昭和56年卒・椴法華小校長・古川　邦彦記）

同窓の輪をひろげ 新たな仲間と集った 大懇親会

函館国際ホテル天平の間は、昨年より四十名多い、五百七十三名の夕陽会員の熱気に包まれ、今まさに開会の時を迎えようとしていました。開会に先立ち、この日のために特別に編成された夕陽会員有志による金管バンドが、玉手道男副会長の指揮のもと、高らかにファンファーレを奏でます。それを合図に天野哲征副会長の先導により来賓の方々の入場です。

夕陽会運営方針並びに推進事項

―平成二十二年度―

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

1　組織強化と運営の効率化

副会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と運営の効率化を図る。

(1)　各界の会員動態の把握と広報活動の充実。

(2)　支部、部会等の充実と支援の強化。

(3)　教職外会員及び高等学校支部、特別支援学校支部の強化。（重点事項）

(4)　※女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。（重点事項）

(5)　本部と各支部、各ブロックとの連携強化。

(6)　夕陽会報201、202、203号の発行。

(7)　母校及び附属学校園に関する情報の収集と活用。

2　人材の育成

人材の発掘と会員の資質と地位の向上を図る。

(1)　※会員である道・市町村議会議員、首長、教育行政管理職等との連携。（重点事項）

(2)　関係機関・団体に所属する会員との連携。

(3)　各支部研修活動の支援。

3　財政の確立と業務の効率化

活発化する活動の維持・発展を図るため、財政の確立と財務の効率的な推進に努める。

(1)　財政基盤の確立と諸会費納入の促進。（重点事項）

(2)　財政業務の効率的処理及び財務管理システムの再構。

4　研究・研修の奨励と文化事業の推進

会員による個人及び共同の研究等を奨励し、特に若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。

(1)　研究・研修助成並びに研究内容の紹介。

(2)　会員による文化事業等の奨励。

(3)　夕陽文化事業の検討。

(4)　教育講演会等の開催。

5　母校への支援と地域への貢献

母校の発展を願い、当面する課題解決のための支援を行う。

(1)　大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(2)　在学生（会員予定者）に対する同窓会意識の啓発。

(3)　※就職対策関係事業への支援。（重点事項）

(4)　学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

6　夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・活用

夕陽記念館の改修に合わせ、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示とともに活用に努める。

(1)　会員の作品、記念資料等の収集と会報での周知。

(2)　夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備。

(3)　夕陽記念館の教育活用。

(4)　夕陽記念館の学生・地域住民への開放と管理の検討。

(5)　夕陽記念館活用準備室の活用。

夕陽会本部事務局業務分担

庶務部

楢山　山山　聡（附属小副校長）

1　諸会議（含懇親会）の諸準備及び進行、記録

2　文書の収受、発送及び保管

3　会員の慶弔事務

4　その他、庶務に関すること

財政部

溝口　幸司（金堀小長）

1　通常会費の徴収、支出事務

2　基本金及び特別会計の徴収、支出事務

3　予算書、決算書の作成

4　前納会員に関する事務

5　その他、財政に関すること

組織部

奥崎　敏之（附属幼副園長）

1　支部組織の編成と組織強化対策

2　会員の動態調査（支部別、校種別会員名簿）

3　支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4　その他、組織全般に関すること

情宣部

古川　邦彦（椴法華小長）

1　「夕陽会報」の発行

2　事務局報の発行

3　その他、情宣に関すること

web委員長

鳴海　裕（高丘小長）

○　夕陽会ホームページの作成とその管理

文化部

中村　吉秀（亀尾小中長）

1　会員の文化活動に対する支援

2　文化事業（音楽会・美術展・書道展等）の企画、実施

3　その他、文化に関すること

研修部

林　敏雄（峠下小長）

1　会員の地位向上対策

2　会員の個人及び共同研究への助成

3　支部・ブロックにおける研修活動に対する支援

4　その他、研修に関すること

厚生部

阿部　憲司（桐花中長）

1　会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施

2　記念資料及び会員の作品収集

3　夕陽記念館の整備、充実

4　その他、厚生に関すること

平成二十二年度 夕陽会本部役員名簿

会長　函館市日吉町1－22－23　橋田恭一（昭和39年卒）

副会長　函館市榎本町6－20　繪面和子（昭和39年卒）
東京都江東区木場2－8－7－901　杉本征年（昭和40年卒）
函館市川原町18－10－503　天野哲（昭和41年卒）
札幌市北区太平8－5－5－7　青柳史匡（昭和42年卒）
青森市造道1－9－28　中谷利（昭和42年卒）
函館市立八幡小学校長　藤川隆（昭和48年卒）
函館市立本通中学校長　玉手道男（昭和48年卒）
北斗市立上磯中学校長　能戸誠一（昭和48年卒）
江差町立江差小学校長　山北実（昭和48年卒）
北海道札幌北高等学校長　黒田信彦（昭和50年卒）
北海道教育大学附属函館中学校副校長　土谷敬（昭和54年卒）
北海道教育大学附属函館小学校副校長　楢山聡（昭和60年卒）

副幹事長　北海道教育大学附属函館幼稚園副園長　奥崎敏之（昭和60年卒）
北海道教育大学附属特別支援学校副校長　平田新次郎（昭和62年卒）

幹事長　函館市柏木町2－17　田中久（昭和33年卒）

総務　函館市北美原2－13－12　信田利之（昭和33年卒）
北斗市常盤1－15－20　加藤宏文（昭和34年卒）
函館市住吉町17－18　池上信廣（昭和37年卒）
函館市桔梗4－5－6　絹野重治（昭和40年卒）
函館市八幡町2－7　伊藤皓嗣（昭和44年卒）
北斗市久根別2－17－21　西谷文子（昭和44年卒）
函館市美原5－31－18　酒井充（昭和46年卒）
函館市桔梗5－13－16　森武由美子（昭和46年卒）
函館市立亀田小学校長　碇幸信（昭和49年卒）
七飯町立藤城小学校長　小林基英（昭和49年卒）
函館市立亀田小学校教頭　宮越忍（昭和57年卒）
八雲町立浜松小学校長　佐藤幸男（昭和56年卒）

監査　函館市花園町5－10　五百川忠（昭和32年卒）
函館市富岡町2－59－9　笹原志郎（昭和38年卒）
七飯町大沼町297－9　森下英治（昭和39年卒）

顧問　北海道教育大学副学長（函館校担当）　鴈澤好博
東京都東久留米市学園1－13－4　三枝三郎（昭和9年卒）
札幌市南区真駒内緑町　浅井好二（昭和11年卒）
函館市柏木町4－20　松島松進（昭和24年卒）
函館市深堀町35－24　川島孝夫（昭和31年卒）

参与　名古屋市守山区小幡字北山2761－339　萩原忠臣（昭和5年卒）
函館市的場町24－15　高坂藤吉（昭和15年卒）
函館市東山2－17－8　北川省吾（昭和15年卒）
札幌市豊平区西岡4－5－5－8　上元啓紀（昭和17年卒）
札幌市南区川沿1－4－9－3　大越場越光越行（昭和17年卒）
国分寺市本多2－3－5　竹野栄（昭和18年卒）
函館市梁川町22－2　西谷冨士雄（昭和18年卒）
函館市松陰町3－24　藪田幸作（昭和18年卒）
函館市元町4－7　八木幸夫（昭和19年卒）
東京都杉並区下高井戸5－19－1　木下邦茂（昭和20年卒）
函館市本町20－13　名東陽吉（昭和22年卒）
函館市川原町13－2　大坂昭雄（昭和22年卒）
函館市銭亀町245－39　赤泊昭吉（昭和23年卒）
函館市深堀町40－11　山尾正（昭和23年卒）
札幌市西区発寒7条　中山素水（昭和24年卒）
札幌市東区伏古7－2－4－35　町田治雄（昭和24年卒）
函館市柏木町31－15　三階上階階厳（昭和24年卒）
函館市中道1－12－11　大淵亮三（昭和26年卒）
七飯町大中山3－303－21　杉山利夫（昭和27年卒）
知内町元町301　田安島安安隆（昭和28年卒）
札幌市中央区北2西21－2－17　福島俊也（昭和28年卒）
函館市大川町4－43　山田富雄（昭和28年卒）
陸前高田市高田町字砂畑11－6　田中則夫（昭和28年卒）
函館市柏木町16－6　田中俊也（昭和29年卒）
函館市中道2－2－3　永谷潤一（昭和29年卒）
北斗市押上2－3－10　山柿三夫（昭和29年卒）
函館市神山3－18－20　森野重雄（昭和30年卒）
函館市山の手2－36－7　石坂勝（昭和30年卒）
函館市桔梗町5－21－32　冨尾勝（昭和30年卒）
函館市中道1－28－1　大島安長（昭和30年卒）
森町字森川町303－6　今野久男（昭和30年卒）
函館市松川町2－5　松田明雄（昭和30年卒）
札幌市手稲区金山2－1－6－2　小頭林頭信夫（昭和31年卒）
森町教育委員会指導参与　伴伊伊伊達伊夫（昭和31年卒）
函館市湯川町2－35－7　岩中村中吉男（昭和31年卒）
江別市大麻中町26－18大麻コーポ516　加藤弘（昭和32年卒）
函館市富岡町1－12－12　小本6町6毅（昭和32年卒）
北斗市常盤1－20－1　田村志朗（昭和32年卒）
函館市青柳町21－20－501　磯部正博（昭和32年卒）
函館市深堀町2－8　野田義成（昭和32年卒）
札幌市厚別区大谷地5－1－15－1513　高村昭三（昭和33年卒）
函館市赤川町57　中島征士（昭和34年卒）
函館市湯川町2－43－13　守山和男（昭和34年卒）
札幌市西区福井2－3－25　尾畠悌介（昭和34年卒）
函館市松陰町25－36　中瀬裕義（昭和34年卒）
函館市富岡町1－10－14　山内洋三（昭和35年卒）
函館市川原町4－24　小笠原愈（昭和35年卒）
函館市美原2－26－9　金山正智（昭和35年卒）
北斗市本町133－34　石岡博心（昭和36年卒）
函館市見晴町9－8　山内脩介（昭和36年卒）
青野昌勝（昭和37年卒）
七飯町中野48－7　小浅悌司（昭和37年卒）
函館市東山1－11－2　札内征男（昭和37年卒）
函館市中道2－2－18　渡利正義（昭和39年卒）
函館市深堀町18－3　吉田恵悦（昭和39年卒）
函館市桔梗4－34－8　新一（昭和40年卒）
乙部町字栄浜48　石坂勝（昭和40年卒）
札幌市中央区南13条西21－1－4－702　中川眞一郎（昭和40年卒）
函館市山の手2－22－4　古旗英捷（昭和41年卒）
函館市深堀町14－29　宮下勤（昭和41年卒）
函館市深堀町7－16　齊藤孝（昭和41年卒）
函館市桔梗町59－197　長谷川良任（昭和41年卒）
函館市西旭岡町2－23－3　田中洋（昭和42年卒）
函館市深堀町16－2　寺岡昭治（昭和42年卒）
函館市山の手1－27－12　門脇正和（昭和42年卒）
函館市柏木町40－12　小山内武弘（昭和42年卒）
札幌市北区新川2条11－2－61　石戸大機（昭和42年卒）
函館市日吉町4－21－7　野田孝夫（昭和43年卒）
函館市美原1－46－14　川合正芳（昭和43年卒）
函館市亀田本町59－3　安保勝順（昭和44年卒）
函館市青柳町21－20－501　谷野村野野誠（昭和44年卒）
江別市大麻沢町1－10　佐藤義昭（昭和44年卒）
札幌市中央区北4条西24－2－1－501　二本柳隆通（昭和45年卒）
七飯町字本町481－31　大川冨美男（昭和45年卒）
函館市教育委員会教育長　多賀谷智（昭和45年卒）
函館市昭和2－12－5　武田隆雄（昭和46年卒）
北海道議会議員　平出陽子（昭和46年卒）
長万部町字長万部453－1　道幸拓志（昭和46年卒）
函館市上野町29－29　畑野克行（昭和47年卒）
知内町教育委員会教育長　田中健一（昭和49年卒）
函館市議会議員　小山直子（昭和54年卒）
函館市議会議員　松宮健治（昭和55年卒）

平成二十二年度 支部役員名簿

（札幌市）

長　近野　豊　昭51　札幌市　新琴似西小長
副　武田　隆二　昭48　札幌市　あやめ野中長
副　菅原　清貴　昭51　札幌市　幌西小長
副　土肥　隆　昭50　札幌市　澄川西小長
幹　城崎　則幸　昭52　札幌市　真駒内曙小長
会　茂木　清貴　昭52　札幌市　藻岩南小長

（石狩）

長　花　春美　昭49　千歳市　向陽台小長
副　阿部　徹　昭50　北広島市　西の里小長
副　山内　雅彦　昭51　千歳市　高台小長
副　冷川　元彦　昭52　恵庭市　恵北中長
幹　谷川　季文　昭54　千歳市　祝梅小長
会　若命　泰寛　昭58　江別市　江別太小頭

（後志）

長　安保　法雄　昭49　喜茂別町　喜茂別中長
副　徳光　茂　昭52　倶知安町　倶知安西小長
副　花田　政弘　昭50　余市町　旭中長
副　長谷川　誠　昭53　黒松内町　黒松内中長
幹　桝井　孝　昭52　余市町　東中長
会　丸岡　哲也　平2　黒松内町　黒松内小頭

（小樽市）

長　内山　哲男　昭51　小樽市　幸小長
副　木村　公全　昭54　小樽市　手宮西小長
副　渋谷　和則　昭54　小樽市　松ヶ枝中長
副　寺澤　真　昭55　小樽市　花園小長
副　小友　和法　昭56　小樽市　奥沢小長
幹　上泉　哲　昭58　小樽市　入船小長
会　堀　智行　昭62　小樽市　潮見台小論

（上川）

長　石川　博美　昭49　旭川市　啓明小長
副　近藤　初美　昭53　美瑛町　美進小長
副　清水　孝徳　昭61　美瑛町　美馬牛小頭
幹　森　将人　昭57　旭川市　知新小頭
会　佐藤　幸子　平6　鷹栖町　鷹栖小論

（宗谷）

長　池田　忠喜　昭48　浜頓別町　浜頓別小長
副　宮田　茂　昭53　稚内市　宗谷教育局義務教育指導監
副　長谷川　富夫　昭57　浜頓別町　頓別小頭
幹　島田　勇　昭51　稚内市　潮見が丘中長

（留萌）

長　秋葉　良之　平元　留萌市　沖見小頭
副　高木　昌行　平2　羽幌町　焼尻小中頭
幹　熊倉　一弘　平3　初山別村　初山別小頭
会　中野　恵　平2　増毛町　別苅小論

（檜山）

長　阿曽　秀任　昭48　乙部町　乙部小長
副　四辻　順一　昭49　せたな町　久遠小長
副　藪　敬　昭53　上ノ国町　上ノ国小長
幹　茶碗谷　稔　昭54　江差町　江差北小長
会　後藤　賢一　昭52　乙部町　栄浜小長

（渡島）

長　小林　基英　昭49　七飯町　藤城小長
副　類家　直人　昭51　七飯町　七重小長
副　細川　敬太郎　昭53　北斗市　久根別小長
幹　佐藤　幸男　昭54　八雲町　浜松小長
会　小野寺　幸恵　昭60　七飯町　藤城小頭

（函館市）

長　碇　幸信　昭49　函館市　亀田小長
副　青木　昌史　昭53　函館市　桔梗中長
副　木村　雅彦　昭59　函館市　市教委教育指導課長
幹　宮越　忍　昭57　函館市　亀田小頭

（空知）

長　山下　浩　昭50　深川市　一己小長
副　門前　史博　昭51　夕張市　若菜中央小長
副　石垣　正公　昭54　岩見沢市　幌向小長
幹　杉野　幹夫　昭53　栗山町　栗山小長
会　佐々木　祐治　昭57　岩見沢市　日の出小頭
会　佐藤　祈　平元　三笠市　新幌内小頭

（胆振連合）

長　中澤　学　昭51　伊達市　伴
副　問谷　英克　昭49　登別市　東小長
副　寺島　雅廣　昭49　伊達市　登別中長
副　油谷　諭　昭53　厚真町　伊達中長
幹　安宅　錦也　昭57　登別市　軽舞小長
会　花田　啓光　平4　洞爺湖町　若草小長
会　蛇田小論

（苫小牧市）

長　川上　博之　昭52　苫小牧市　若草小長
副　納　博　昭50　苫小牧市　和光中長
副　佐藤　基　昭52　苫小牧市　ウトナイ小長
副　荒谷　敏也　昭52　苫小牧市　明倫中長
副　澤谷　佳典　昭53　苫小牧市　啓北中長
副　島　義幸　昭53　苫小牧市　開成中長
副　寺田　洋子　昭53　苫小牧市　明野小長
副　大山　公敏　昭56　苫小牧市　勇払中長
副　成田　浩司　昭58　苫小牧市　清水小長
幹　反保　秀規　昭55　苫小牧市　苫小牧西小長
会　山形　知憲　昭62　苫小牧市　大成小頭

（室蘭市）

長　中村　正志　昭48　室蘭市　東中長
副　清水　利明　昭48　室蘭市　八丁平小長
副　後藤　寿子　昭51　室蘭市　絵鞆小長
副　入江　祐史　昭50　室蘭市　旭ヶ丘小長
幹　小林　俊光　昭49　室蘭市　大沢小長
会　小林　誠　昭58　室蘭市　東明中頭

（日高）

長　小笠原　進　昭49　日高町　富川小長
副　細川　清茂　昭49　新ひだか町　三石小長
副　亀谷　弘　昭53　新ひだか町　東静内小長
副　高野　卓也　昭53　浦河町　浦河第一中長
幹　奥村　尚久　昭57　新冠町　新冠小長
会　松井　伸樹　昭57　えりも町　えりも岬小頭

（十勝）

長　白銀　孝志　昭49　新得町　新得小長
副　五千五葉　五夫　昭51　新得町　屈足南小長
副　久末　光範　昭49　芽室町　芽室南小長
副　藤代　和昭　昭49　芽室町　芽室中長
副　立花　論　昭49　幕別町　古舞小長
幹　横山　徹　昭53　更別村　上更別小長
会　中村　真也　昭59　上士幌町　糠平小長

（帯広市）

長　河合　昇男　昭53　帯広市　広野小長
副　高橋　正紀　昭58　芽室町　白樺学園高論
副　今森　雅仁　昭56　帯広市　愛国小頭
幹　花井　豊　昭57　帯広市　帯広第一中頭
会　森下　寛　平元　帯広市　稲田小頭

（釧路）

長　誉田　洋三　昭49　浜中町　霧多布中長
副　磯部　昇一　昭52　厚岸町　太田小長
幹　鳴海　厚　昭58　白糠町　白糠中頭
会　木越　裕美　平10　釧路市　昭和小論

（根室）

長　大井　誠一郎　昭49　根室市　花咲小長
副　小野寺　宏二　昭53　中標津町　広陵中長
副　谷口　秀文　昭53　標津町　標津中長
幹　水野　正司　昭61　中標津町　広陵中頭
会　打川　真由美　昭62　中標津町　丸山小論

（網走連合）

長　小林　浩路　昭49　北見市　高栄小長
副　斉藤　房生　昭50　紋別市　潮見小長
幹　田巻　司史　昭55　湧別町　湖陵中長

（高等学校）

長　穴水　正　昭48　札幌市　北海道有朋高長
副　小玉　章紀　昭48　苫小牧市　駒澤大学附属苫小牧高長
副　黒田　信彦　昭50　札幌市　北海道札幌北高長
幹　三塚　弘　昭55　苫小牧市　北海道苫小牧西高頭

（特別支援学校）

長　島津　彰　昭48　函館市　函館聾学校長
副　児玉　稔　昭54　白糠町　白糠養護学校長
副　木村　宣孝　昭58　伊達市　伴　伊達高等養護学校長
幹　吉野　隆宏　平2　函館市　附属特別支援学校中学部主事

（青森津軽）

長　白取　清彦　昭46　青森市　青森市八幡林字熊谷41－2
副　渡邊　和雄　昭51　青森市　長島小長
副　木村　公司　昭56　平川市　松崎小論
副　工藤　浩　昭63　弘前市　県立弘前第二養護論
幹　湯田　秀樹　平元　青森市　県教育庁学校教育課指導主事
会　帰山　幸博　平元　八戸市　県立八戸第一養護論

（青森西北五）

長　高橋　宏彰　昭59　大鰐町　蔵館小頭
副　野上　四郎　昭18　青森市　青森市花園1－10－6
副　木村　修治　昭61　つがる市　市教委指導主事
幹　渋谷　隆行　平4　板柳町　板柳南小論
会　佐々木　康栄　平2　五所川原市　五所川原小論

（青森南部）

長　岩間　和章　昭50　五戸町　五戸小長
副　木村　功　昭54　五戸町　五戸小頭
副　芦名　均　昭56　三階上町　三道仏小頭
副　大浦　和典　昭58　八戸市　新井田小頭
幹　中川　俊也　昭59　八戸市　下長中頭
会　小笠原　一男　昭54　おいらせ町　甲洋小論

（秋田）

長　菊池　信和　昭56　藤里町　藤里中頭
副　黒澤　薫　昭57　秋田市　築山小頭
副　日沼　良樹　平2　北秋田市　鷹巣南中論
幹　近藤　誠輝　平元　三種町　山本郡三種町鹿渡字焼野1－1

（岩手）

長　田面木　茂樹　昭48　奥州市　水沢小長
副　村上　政悟　昭51　滝沢村　滝沢南中長
副　熊谷　勇夫　昭52　久慈市　沿岸北部教育事務所長
副　金沢　道子　昭50　宮古市　宮古市山口5－8－2
幹　山口　道明　昭57　陸前高田市　米崎小副長
会　橋田　孝　平9　滝沢村　滝沢小論

（宮城）

長　武井　晃　昭31　安松島町　安松島町磯崎字割汲4－6
幹　嶋田　晋　昭44　利府町　利府町加瀬字野中沢124－16
庶　鈴木　教生　昭30　米山町　登米郡米山町字桜岡新田2－1

（首都圏）

長　高橋　妃彩子　昭52　士渋谷区　土鳩森小長
副　狩野　武雄　昭49　世田谷区　三軒茶屋小長
副　横山　文樹　昭52　世田谷区　昭和女子大学大学院教授
幹　相川　哲也　昭55　大田区　矢口東小長

就任ご挨拶

更なる発展を願って

副会長　繪面和子（昭和39年卒）

この度、副会長の大任を仰せつかりまして、その重責に身の引き締まる思いでおります。会長、役員の皆様のご指導を頂きながら夕陽会の発展のために努めたいと存じます。よろしくお願い致します。

平成十四年度より七年間、総務部の一員として、「北海道教育大学再編に伴う函館校の在り方」「夕陽記念館の改修」「夕陽会創立九十周年記念式典・祝賀会」と、各事業に携わりまして、貴重な体験をさせて頂きました。

特に、函館校が「教員養成課程」から「人間地域科学課程」に改編されたことは、母校から教員を目指す学生が巣立たなくなるのではと不安を感じたことです。

しかし、教員免許取得が可能な制度であることが実証され、ほっとしているのも事実です。現在母校で非常勤講師をしてますが、義務教育免許の取得を希望する学生が増えていることは嬉しい限りです。

これからも、函館校は更なる発展を目指して改革が進行すると聞いてます。

今後、夕陽会としては、大学との連携を密にし、母校発展のために何が出来るか真剣に検討する必要があると思います。

また、教員以外の同窓の方々が積極的に参加できるような同窓会を、どうつくりあげていくかが課題のように思います。

会員の皆様のご支援をよろしくお願い致します。

日増しに荷が重く

副会長　天野哲征（昭和41年卒）

北酷の地平に燃ゆる……とタイプライターで打った案内葉書を三人の校長先生と三人の教員に送って、小さな夕陽を礼文島で行ったことを思い出しております。

それ以来、身近に感じてきた夕陽会ですが、まさか私如きに大役が仰せ付けられるとは露とも知らず、でございます。

教頭職を進めて下さった中村教育長の、生涯かけて身の丈を分かる人になればいい、と檄をとばし続けて下さったことに感謝しつつも、日増しに重くのしかかってくるものに困惑さえ感じています。

夕陽会は二年前に九十周年を迎え、意気揚々たる時代に入りましたが、大学の在り様や世間の情勢が大きく変化して来ている状況は周知のことです。

しかし、夕陽の「人を育てる」ということは、教職であろう教職でなかろう、育てるということはどの職種においても同様です。

大学に教員養成課程がなくなってからの学生の就職先は大きく変わらねばなりませんでした。しかし、私たちを含め、卒業生全員には「土地墾闢・人民蕃殖」のご沙汰書（精神）は生きています。

世界のどの地にいようとも、学生の就職が万全であるよう、夕陽は奮闘しなければなりません。その意味で、老若男女を問わず、連携して、若い人たちの道を開く活動を共に頑張りたいものです。

宿命的な課題に向かって

副会長　青柳史匡（昭和42年卒）

この度の総会において副会長という大役を仰せつかりました。職責の重さを痛感しております。

さて、札幌支部は、平成二十年に支部創立八十周年を迎え、記念式典や記念誌発刊等の事業を行いました。その折に私は記念誌編纂を担当させていただきました。記念誌には、昭和三年からの支部八十年の歴史の他に、師範卒の大先輩をはじめとする多くの方の玉稿を掲載できました。そこには母校への思慕、同窓への情合、絆の大切さ、後輩へのエール等が熱く綴られ、会の不易の部分が実感できます。また、歴代の支部長や役員各位が心血を注がれたのが、会員の意識の高揚、組織の活性化、会費納入率の向上、現職会員の資質の向上・研修の充実等への取り組みでした。このことは、本部や各支部が現在も抱える課題であり、組織なるがゆえの宿命的な課題とも言えましょう。

加えて、母校は学科再編が成されたため、今後は教職に就く会員が減少し、教職外の同窓生の増加が必定です。多様な職種の同窓生を温かく迎え入れる夕陽会の新たな組織強化のため、母校とは勿論のこと、各支部との緊密な連携が今後ますます大切となりましょう。

歴史と伝統ある夕陽会の名を汚さないよう心して務めて参ります。皆様のご指導、ご支援をお願いいたします。

四時（じし）の序（じょ）～就任ご挨拶にかえて～

監査　森下英治（昭和39年卒）

「四時の序」とは、春夏秋冬が移り変わることです。春は春の役割を終えれば夏にその地位を譲り、夏は夏でその役割を終えれば主役の座を秋に譲り渡して、自分は舞台の裏に引っ込んでいく。人間もそうあるべきだ、というのです。

このたび、図らずも監査という大役を総会において仰せつかりました。それも尊敬する松田明雄大先輩の後継としてなので、ますますその責任の重さを痛感しているところです。もとより微力でありますが、鋭意努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

夕陽会歴代役員は、自分の役割を果たし終えたと思った時は、いさぎよく舞台から退いていかれます。常々その引き際は見事で、美しいと感じておりました。

また、その業績も輝かしく、そこに至る艱難辛苦を乗り越える後ろ姿をもって後輩への無言の人生作法を教示いただきました。運営方針にある「創造し行動する」という言葉は、そんな歴史の中から生まれたものと理解しております。さらに、会員一人ひとりに配慮した、様々な工夫と支援体制の強化充実も、夕陽会の長い伝統の中から生まれ、進化しつつ引き継がれてきた姿であると満足しています。残されている課題も数多くありますが、会員一人ひとりの知恵と勇気と行動力で解決できると確信しています。

夕陽会への熱き想いを

副会長　**藤　川　隆**
（昭和48年卒　函館市立八幡小学校長）

このたび、函館市小学校長会長の就任に伴い、夕陽会副会長という大任を仰せつかりました。橋田会長はじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の充実・発展のために、精いっぱい職責を果たしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

私は、これまでも庶務部長や幹事長を務めさせていただき、各支部の皆様には大変お世話になりました。私にとりましては、全国各地の会員の皆様との出会いが、貴重な財産となっております。

とりわけ、大先輩の方々とのお話の中で感じた「夕陽会への熱き想い」が、強く心に残っています。それは、青春時代を共に過ごした仲間や母校、函館への愛着や誇りから生まれてきているものだと思います。

夕陽会の会合等では、「本日お集まりの先生方……」と当たり前のように言っていた時代から、今、大きく様変わりしようとしています。

しかし、同窓として、同じ時間を共有した仲間や母校などへの誇りや愛着は、誰もが感じるものだと思います。

多くの先輩が抱いてこられた「夕陽会への熱き想い」を、様々な職種や世代の会員に伝え、その想いがさらに広がり続けるよう、少しでもお手伝いができればと考えております。

豊かな人材と強い絆

副会長　**玉　手　道　男**
（昭和48年卒　函館市立本通中学校長）

この度、函館市中学校長会長就任に伴い、夕陽会副会長を仰せつかりました。歴史と伝統に支えられた夕陽会に、少しでも貢献できるよう精一杯頑張ります。

網走管内置戸町に生まれ育った私にとって、桐花寮で過ごした二年間の、多くの方との出会いと学びは貴重なものでした。教職に就いてからは、渡島で学校幹事を経験はしたものの、夕陽会員としての自覚は余りありませんでした。しかし四十代後半を迎えて、夕陽会八十周年記念事業に携わったときに、その意識は大きく変わりました。

田安島会長を筆頭に、見事な組織力を発揮しての周年事業の取り組みに、私は圧倒され放しでした。諸先輩のパワーと結束力、式典等の企画構成の素晴らしさ、夕陽会の歴史と伝統を目の当たりにしてただただ感激するばかりでした。まさに「創造し行動する夕陽会」だったからです。この時、諸先輩の心の豊かさや温かさに触れることのできた体験が、私の教職人生の宝となっています。

その後は、文化部長として、第八回夕陽書道展と第九回夕陽音楽会の開催にかかわることとなりましたが、ここでも豊かな人材とその強い絆に深い感銘を受けました。また、会合等で大先輩から声をかけていただく度に、夕陽会員であることの自覚と誇りをかみしめています。

就任にあたって

副会長　**能　戸　誠　一**
（昭和48年卒　北斗市立上磯中学校長）

この度、渡島小中学校長会会長の就任に伴い、夕陽会副会長を仰せつかりました。微力でありますが、橋田会長をはじめ、先輩諸氏のご指導を仰ぎながら、夕陽会の発展のために精いっぱい努めますので、よろしくお願いいたします。

私は昭和四十八年度の卒業ですが、四年間の桐花寮での生活が強烈に残っています。熱く語り合った学生運動、外国語やピアノ実技で苦労した勉学、四人揃えば楽しい遊び、ぶらり列車の旅、たまには恋の話も……。体力と好奇心にあふれ、充実した青春時代を送っていたように思います。

夕陽会の懇親会は、有意義な寮生活や妥協を許さない部活動、もがき苦しんでいた勉学などを思い出させてくれる場であり、新鮮な体力と好奇心を注入してくれる場でもあるような気がします。

残念ながら母校である北海道教育大学函館校には、教員養成の学部がありません。しかしその根底にある「開拓の精神」「進取の心」を失うことなく、新しい教育理念と方向性を持った大学としての存在感を示していただきたいと思います。困難と思いましたが、教員養成の学部を併設できないものでしょうか。

「創造し行動する夕陽会」をモットーとし、本会のために微力でありますが、少しでもお役に立てるよう頑張ります。

受賞（章）おめでとうございます

✻瑞宝双光章

小野　専一　氏
（昭和17年卒　森町字上台町三〇七）

川島　孝夫　氏
（昭和31年卒　函館市深堀町三五の二四）

平成23年度
本部総会・懇親会

◆期　　日　平成23年６月18日（土）
◆会　　場（札幌パークホテル
（札幌市中央区南10条西３丁目１－１
☎011－511－3131）
・支部長会議　午後１時30分～
・総　　会　午後４時～
・懇　親　会　午後５時30分～

夕陽　とこしえにあれ

前副会長　山柿三夫（昭和29年卒）

思えば、物心ついた頃から函館師範学校という名は身近にあった。私の卒業した小学校は茂別村立茂辺地小学校で、昭和八年から十八年まで函館師範代用付属小学校と称されていた。父は師範学校二回生でここの校長だった。毎年函館師範から教生先生がくるのが楽しみだった。

今から思えば指導力のある訓導が多く研究活動の盛んな学校だった。

昭和二十五年母校学芸大学函館分校に入学、必ずしも教師を熱望していたわけではないが、三年目の教育実習で俄然その気になり、恩師加賀栄治先生に更なる研究をとご教導を受けたが、教育現場に立つことを決意した。当時の大学教官は学問研究もさることながら学生の指導や就職等に熱心に当たっておられ、人間的な魅力ある方々が多かった。

夕陽会員となってからは、渡島管内の小中学校（時には高校定時制）の教壇に立ち、大中規模校、僻地複式校教育を体験した。四十四歳から、釧路、空知、宗谷三教育局で指導主事として、組合の厳しい反対の中で業務の遂行に努力した。

顧みれば若い頃から、その時、その場で同窓の方々から手厚い援助をいただいた。本部役員退任に当り、深く感謝しお礼を申し上げたい。夕陽会ありがとう。

私は夕陽会員たることを、誇りとする。

回顧

前副会長　尾畠悌介（昭和34年卒）

平成七年度、函館市中学校長会の代表として副会長に就任いたしましたが、翌年、夕陽会会則の一部が改正され本部付きの副会長として再任されました。顧みますと、安島会長の下で九年、川島会長の下で四年、橋田会長の下で二年の計十五年間もだらだらと副会長を務めさせていただいたことになります。

現職時代は母校で非常勤講師として社会科教育教育法を十年ほど学生に指導し、尚学会副会長を一年、また、退職後も引続き会長を三年間、奥平忠志分校主事とコンビを組んで母校学生の支援やキャンパスの整備に当たっていたため、母校と夕陽会の橋渡しをすることができました。

今になって思えば、教職課程の外に一学年八十名の総合科学課程が十年間も続いたことが函館校新課程誕生の契機になったのではないかと察するところです。

進化論で有名なダーウィンは「変化するもののみが生き残ることができる」と断言しております。今年度夕陽会本部総会後の懇親会には市役所職員と民間企業就職者の若者が十数名参加いたしました。現状を「よし」と思っていたり、嘆いてばかりいるのでは退歩につながります。夕陽も変わらなければ明日を切り拓くことができません。

後半の無能副会長ぶりを恥じながら。

貴重な経験に感謝

前副会長　中瀬裕義（昭和34年卒）

平成十二年、安島会長の時代に図らずも副会長に就任しました。少子化の進行に伴い学校の統廃合がなされ大学もまた構造改革のうねりに翻弄されていました。このような時代ゆえに「二十一世紀幕開けの総会を札幌で」という会長の強い願望で翌十三年二十年ぶりに私の地元札幌で開催されました。十五年には大学の将来基本方針が示され函館校は教員養成課程に終止符を打ちました。いかに時代の流れとは言え苦渋の承認でありました。

平成十六年、師範卒の会長から大学卒の川島会長に代わられ大学も法人化され十八年に「人間地域科学課程」としてスタートしました。夕陽会創立九十周年記念事業の準備も始まり翌年本会のシンボルとも言える夕陽記念館の改修に着工。この決断に会長の大きな人間性を垣間見た思いがしました。平成二十年九十周年記念式典祝賀会を賑々しく終えたことは記憶に新しい所であります。この年の総会で新進気鋭の橋田会長が選出されました。

前副会長として十年間、時代が大きく変貌をしているこの時期に三人の会長に仕え適切なご指導を賜り加えて会員の皆様の温かいご支援を頂きましたことは望外の幸せでした。会長の代理で各地の年次総会にも出席し頑張っている会員の姿に感激しました。お世話になりました。来年の札幌大会で皆様とお会いしましょう。

函師の響き

前監査　松田明雄（昭和30年卒）

教職生活四十年中、胆振十五年、渡島二十五年である。胆振は札幌、函館などの分校出身者が拮抗していたので、自ずと同窓意識は培われたのであった。函館分校出身等と言うより、函師、札師という言い方が残っていて、対抗意識の根底は、教師としてどちらが優れているかであり、教育研究に力を入れたものである。

渡島に転勤してくると、函館出身が当然の感があり、同窓意識は希薄であるばかりでなく、無神経さえ感じ、他校出身者への配慮のなさにも唖然とした。

今、教育大学の再編で函館校が大きく変革され、札幌校と異質の大学になって、私の脳細胞に胆振時代の「函師」の響きが甦って来るのを止めることはできず、夕陽会の将来への想いは切である。

さて、いよいよ退任となった。私に課せられた使命に応えられなかった慚愧の念は残る。一番想い出に残るのは、八十年記念誌編纂委員として走り回った事と言えば監査として落第であろうか。

お三人の安島元会長、川島前会長、橋田現会長、また事務局の皆さんに感謝し、夕陽会で培われた創造し行動する人間でありたいものだとしみじみと思う。

役辞すや巴湾へ至る薫る風

副幹事長に就任して

副幹事長　**楢山山山山聡**
（昭和60年卒　北海道教育大学附属函館小学校副校長）

このたび、附属函館小学校副校長という立場から、夕陽会副幹事長（兼庶務部長）の任を仰せつかることになりました。多くの先輩諸氏が築き上げたこの夕陽会の歴史と伝統を受け継ぐことへの心配や不安が大きく、改めて本職の重さを実感しております。

これまで、財政部副部長として夕陽会創立九十周年事業に携わるという貴重な経験をさせていただきました。その中で、全国各地にいらっしゃる夕陽会員やご家族の皆様の熱い思いにふれることができました。私のように、函館や渡島という夕陽会のお膝元しかしらない人間には、夕陽会は身近すぎて空気のような存在です。しかし、全国の会員の皆様から改めて空気の存在の大切さを実感させていただきました。そして、私たち地元の会員が夕陽会を支え続けることで、全国の会員の皆様が夕陽会への思いをもち続けることができます。そのために、私は微力ではありますが全力を尽くす所存です。

さて、過日開催された総会や大懇親会と、それに至るまでの各種会議の企画と運営が私の担当になります。会議をスムーズに運営することで、橋田会長や土谷幹事長を助け、夕陽会の発展につながることを願っております。今後とも、会員に皆様のご協力をお願い申し上げます。

感謝、感謝、感謝

前副幹事長　**花田　譲**
（昭和55年卒　函館市立えさん小学校長）

平成十八年度から約四年間、副幹事長を努めさせていただきました。庶務部長兼任ということで、本部総会をはじめとする各種会議に関すること、会員の皆様の慶弔に関することなどを担当させていただきました。仕事が遅く、川島孝夫前会長、橋田恭一現会長をはじめ多くの事務局各部長の方々、本部・支部役員の方々からご支援をいただきながら業務を何とか進めることができましたこと、心より感謝申し上げます。

前副幹事長就任時の御挨拶の中で、函館から遠く離れた地域で仕事していた際に、その地域に同窓の方がいたことが一番心強かった旨を書きました。

おかげさまでこの四年間、道内外の各支部、各支会の皆様とお会いする機会が多くなり、改めて夕陽会の結束の強さと同窓の皆様の心の豊かさや温かさ、心強さを一層感じさせていただきました。

また、創立九十周年記念事業・行事に微力ながら関わらせていただき、夕陽記念館の改修、記念式典、記念祝賀会などを通して、先輩の皆様の母校や夕陽会に対する思いや情熱を目の当たりにし、深く強く感動いたしました。

これからも橋田会長のかかげる「チェンジ」の精神で、函館市支部会員として活動させていただきます。

本当にありがとうございました。

会務報告

幹事長　**土谷　敬**
（昭和54年卒）

《一般会務》

2／15　平成21年度卒業生専攻代表会議を開催する。（函館）

15　函館校根本教授と橋田会長、土谷幹事長が学部化構想について懇談する。（函館）

3／6　平成22年度版会員名簿作成会議を開催する。（函館）

小6　小本部会報200号を発行する。

16　北海道教育大学函館校卒業式に橋田会長が出席する。（函館）

16　函館校卒業式において平成21年度卒業生の新入会員の勧誘を行う。（函館）

4／8　北海道教育大学合同入学式に橋田会長が出席する。（札幌）

26　小鳩澤副学長と橋田会長、事長が懇談する。土谷幹（函館）

5／22　会計監査を行う。

長28　第3回本部役員会を開催する。（函館）

6／4　本部役員会、顧問参与会議を開催する。（函館）

19　（平成22年度全国支部長会議・本部総会・懇親会を開催する。（函館）

長19　第9回夕陽美術展を函館市芸術ホールギャラリーで開催する。（函館～24）

25　学生対象の夕陽教育フォーラムを開催する。（函館）

《支部総会・懇親会・同期会・個展等》

4／10　函館市支部総会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（函館）

17　札幌支部総会に橋田会長が出席する。（札幌）

17　空知支部総会に土谷幹事長が出席する。（岩見沢）

24　釧路支部総会に橋田会長が出席する。（釧路）

28　八雲支会総会に楢山副幹事長が出席する。（八雲）

5／7　室蘭支部総会に橋田会長が出席する。（室蘭）

8　小樽支部総会に橋田会長が出席する。（小樽）

8　上川支部総会に中瀬副会長が出席する。（旭川）

8　十勝帯広総会に天野総務が出席する。（帯広）

8　石狩支部総会に奥崎副幹事長が出席する。（札幌）

8　渡島支部総会に土谷幹事長が出席する。（函館）

11　（昭和33年卒同期会が開催される。長（函館）

13　函館市支部幹事会・新会員歓迎会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（函館）

15　檜山支部総会に橋田会長が出席する。（江差）

15　後志支部総会に奥崎副幹事長が出席する。（倶知安）

21　苫小牧支部総会に奥崎副幹事長が出席する。（苫小牧）

21　森支会総会に土谷幹事長が出席する。（森）

6／7　北斗支会総会に橋田会長が出席する。（北斗）

10　「水彩画、油彩画、デザイン8人展」（青野昌勝昭和37年卒他）が函館市芸術ホールギャラリーで開催される。（函館）

11　鹿部支会総会に橋田会長が出席する。（鹿部）

11　長万部支会総会に土谷幹事長が出席する。（長万部）

18　七飯支会総会に尾畠副会長が出席する。（七飯）

長19　（昭和40年卒同期会が開催される。（函館）

25　木古内支会総会に橋田会長が出席する。（木古内）

27　首都圏支部総会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（東京）

7／2　松前支会総会に土谷幹事長が出席する。（松前）

3　川島前会長叙勲祝賀会に橋田会長が出席する。（函館）

9　福島支会総会に天野副会長が出席する。（福島）

14　指導主事等会総会、懇親会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（札幌）

16　渡島支部支会長・幹事長会議に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（函館）

「第九回夕陽美術展」を終えて

事務局長　横岸澤　英　二
（昭和51年卒　5　函館市立本通中学校）

会員の文化活動の充実を目的に、昭和五十三年から四年おきに開催してきた夕陽美術展も九回目を数え、六月十九日（土）～六月二十四日（木）の六日間、函館市芸術ホールギャラリーで開催されました。

前回同様、会期を総会に合わせたこともあり、夕陽会員や一般来場者で賑わいました。

出品作品数は、絵画三十四点、版画一点、デザイン一点、工芸六点、彫刻・立体八点、計五十点がゆったりとした空間の中に、平面、立体がバランス良く展示されました。

オープニングセレモニーでテープカットする橋田会長（右から２人目）

母校教官であった故秋山沙走武氏の乾漆作品や現教官の小平征雄氏（工芸）、相田幸男氏（絵画）。夕陽会員では、昭和十九年卒乳井邦衛氏（絵画）を筆頭に、昭和三十二年卒小樽市在住の堀槇子氏（絵画）、三百号の大作を出品した昭和四十六年卒鈴木秀明氏（絵画）。若手会員では、平成十八年卒、岩内在住の雁原郁美氏（彫刻）、平成二十年卒安田祐子氏（絵画）、平成二十一年卒の白岩大佑氏（工芸）など、全道、全国で活躍されている方々の作品も含め、個性あふれる作品が並び、見応えのある美術展となりました。

岩中村吉秀文化部長を中心に、一年前から会場の確保や出品依頼等の準備を進めてまいりました。出品してくださいました会員の皆様はもとより、作品搬入、展示、搬出に至るまで、実行委員の皆様に支えていただきました。ありがとうございました。

最後になりましたが、夕陽美術展の開催にあたり、お力添えをいただきました橋田恭一会長をはじめ、夕陽会員の皆様のご厚情、ご支援に心より御礼申し上げます。

創造し行動する夕陽会をモットーに次回の美術展でお会いしましょう。

展示作業風景

第九回夕陽書道展にむけて

文化部長　中村　吉秀

昭和五十三年に第一回夕陽書道展を開催してから、平成二十三年には第九回を迎えることになりました。

全国各地で書活動をしている会員はもとより、新たに書を始められた方々にも出品いただきたいと思っております。そして、書をもって夕陽会としての繋がりを求めつつ、文化的な心の交流を深めていきたいとおさえています。

寄贈図書の紹介

「家庭、学校、地域への提言」

前函館大学学長　小笠原　愈　氏著（昭和39年卒）

本書は、函館新聞で、平成二十年二月八日から連載（月に二回）を始めた『**小笠原先生のひとり言**』が、平成二十二年三月二十六日に**五十回**になり、これを機にまとめたもの。未来にたくましく生きる子どもの育成のために、崇高な使命感と誇りを持って、教育にあたってほしいと願う魂揺さぶる不易の箴言である。

「第一章家庭への提言」は、①子どもの健やかな育成を②子どもの発達課題を③子どもの食育の工夫を④家庭全員参画型の家庭を、子どもを含めた家族全員が家事や育児に参画する家庭をつくる大切を。

「第二章学校への提言」は、教員が教師になれば、子どもも保護者も高まる。校長が教育経営者として高まれば、学校も教員も高まると耳が痛いことばで教示している。「教師は教育のシンボル」にならねばならないことを自覚させられる。

「第三章地域への提言」は、地域の人びとが教育者の意識で、故郷の特有に持つ歴史文化と結びついて、郷土に対する誇りと愛着を抱く教育の大切さ、現在から明日に向っての函館の有様への情熱。

今疎かになっている教育を、ふり返ってみる必要性を痛感する。熱い思いで子どもたちを育成する教育や開かれた教育経営の原点を、心に沁みることばで脈々と綴っている。この本の文章の底にある真意を知った時、このままでいいのか、こうしてはいられないという気持ちにさせられる。一読の価値がある。

（昭和29年卒　函館教育経営研究所長　円山　博司　記）

平成22年度

全国支部幹事長会議のご案内

❖日　　時　平成22年８月７日（土）

・受　　付0 14：00～14：30
・全国支部幹事長会議　14：30～16：30
・懇　　親　　会　17：30～20：00

❖会　　場　ホテルリソル函館
（函館駅前の旧フィットネスホテル330）
函館市若松町６－３
☎0138－23－9269

函館を基点として。

パンフレット・チラシ
総合デザイン・広告・企画
出版編集・ビジネスフォーム
一般伝票
株式会社 島本印刷
〒040-0053　函館市末広町13番27号 TEL.0138-26-1201 FAX.0138-26-0158
E-mail simamoto@palette.plala.or.jp

夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはｗｅｂ委員会により、刷新されてから４年が経過しました。現在まで、約23,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページの主な情報	会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み 会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過 母校90周年記念式典、支部・本部掲示板 本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報 渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」 母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/

情宣部ｗｅｂ委員会委員長　鳴　海　　裕（昭和54年卒）

「人間地域学部」への発展と同窓会との団結

北海道教育大学副学長函館校担当　鴈　澤　好　博

今年度から二年間函館校担当副学長として、キャンパスの運営を担うこととなりました。社会が大きく返還する中、函館校も時代に適切に対応した新たな大学作りが求められていると強く感じているところです。さて、ご挨拶にあたり、四点ほど述べさせていただきたいと存じます。

まず伝統への誇りと柔軟な時代即応という点です。この四月の入学した新入生に対し祝辞を述べた際、本校の受け継いできた建学精神が「土地墾闢・人民蕃殖」であることを述べました。本学の設立の目的は、北海道開拓とそこに住む人々の人材養成に大きな目的であったわけですが、この趣旨は今も全く変化していないように思うからです。開学以来一〇〇年に近い歴史を経て、二十一世紀に入り、世界が多様化、グローバル化し、環境問題、貧困問題など様々な諸問題が生起しています。本学のミッションが、教員養成に加え、北海道や日本の発展とそれを支える幅広い人材養成を行うことが新たに求められており、二十一世紀版の「土地墾闢・人民蕃殖」の精神を開墾することが求められています。新入生には伝統をしっかり受け止め、二十一世紀、新時代において、柔軟に対応できる人間成長を図るように求めました。こうした趣旨を明らかにするため、二十一世紀版の新たな墨書、「土地墾闢・人民蕃殖」を副学長室に掲げたいと考えています。

さて、平成十八年、函館校は五専攻からなる人間地域学課程に再編し、副専攻を設けるなど新たな教養教育型大学の模索を続けてきました。今年三月にその第一期生三百二十九名が卒業しました。就職状況は学校教員へ六十三名、公務員へ三十九名、民間企業へ百三十五名であり、明らかに民間へシフトした教養教育を中心の学生が羽ばたいてゆきました。リーマンショック以降の厳しい就職状況の中で民間への就職率は九十％を確保し、学校教員の現役採用率（三十三％→五十一％）においては昨年を上回る成績です。加えて大学院進学者は四十名に上り、本学大学院に加え、北大、東北大、早大大学院など幅広い進学者を送り出しました。このことも、本学の教育目的に沿う方向です。こうした特徴をさらに発展させるのは容易ではないと感じています。

今年、財務省が財政規律の観点から法科大学院と並んで教員養成系大学を対象に予算執行調査を開始しました。財務省が問題視する点について、積極的に予算減を図ろうとするねらいと考えられます。その調査項目に、新課程は維持する目的は何か？どう捉えていくのか？と言う問いかけがなされています。北教大は平成十八年の大規模な再編で、いわゆる新課程は函館に集約しました。当時、学長はこれで北教大に新課程はなくなったと言いました。しかし、財務省は本当にそう捉えているのでしょうか？また、社会的認知は進んでいるでしょうか？一方、人間地域学課程は、上記の教養教育中心の新たな機能を展開しつつあります。また、地域との連携や単位互換など大学間連携による新たな機能を持ちつつ、地域にも一層根ざした大学への取り組みを進めています。現在進めるこうした展開は財務省が問題視する「新課程」では機能不全です。一学年三百三十名もの学生の、安定的な人材養成を行うためには、人間地域学課程を発展させ、「人間地域学部」あるいは「教養部」にする構想が必要です。学生たちが就職活動にあたり、教育学部内にある人間地域学課程を説明するのに、苦労する場面がしばしばあると聞いています。こうした状況を早く脱し、「学部化」に発展させることでこそ、二十一世紀型の「土地墾闢・人民蕃殖」を行える基盤確保ができると確信します。一朝一夕でできるとは思われませんが、地域や同窓会とも手を携えた息の長い運動を展開したいと考えています。この点についてもぜひ、今後ご協力とご支援を賜りたいと存じます。

ところで、アメリカの大学では推薦入学が広く定着しているそうです。日本の大学の入試と言えば公平性ばかりが基準とされます。アメリカの入学制度の要点は、大学のミッションに沿う総合性を備えた人物を入学させることです。そこで、同窓生が入学させたい生徒を大学に推薦するのです。また、同窓生は自分の子弟を積極的に卒業大学に入学させるのだそうです。なぜなら、卒業大学で一生付き合いとなる同窓生と巡り合い、よき教師とも接し、素晴らしい生活を送った母校に子弟を送れば、子弟も同様に人間的な成長が期待されるからです。ごく当たり前のことのように思われます。大学の面接官はこうして全米を飛び回って、推薦生徒に一対一で時間をかけて面談するのだそうです。

卒業生にとって大学が過去のものではなく、常に身近にあり、母校に安心して子弟を送るシステムが確立されているのです。同窓生と大学の強い信頼関係が構築されていることに、深く学ばされます。そのために、母校はしっかりした教育や社会活動や研究を進め、同窓生に加え、社会からも尊敬と信頼を集める大学でなくてはなりません。先般、夕陽会総会に参加させていただき、五百三十名もの同窓生がご出席された皆様方の強い結束力を感じました。同窓会と大学の団結を確固としたものにして、大いに同窓生の方々が入学生を送っていただける大学にしたいと考えています。

社会に活躍する同窓

就学指導委員会に携わって

函館市教育委員会　黒田育生（平成2年卒）

「就学指導」「特別支援教育」「療育」：：昨年の四月に現在の学校教育部学務課に配属されてからは、聞き慣れない言葉の連続でした。私も一応は教員免許を持ち、多少はその知識が生かせるのかと思っていたのですが、その考えは甘く、教育現場の時代の流れは想像以上で、こと特別支援教育に関しては、過去の「特殊教育」から理念が転換し、障がいのある子どもの教育環境が大きく様変わりしていることに驚くばかりでした。

さて、学務課で事務を所管する函館市就学指導委員会は、医師や教育職員等の専門家二十名の委員により構成され、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育が受けられるよう、「就学指導部会」と「適応指導部会」の専門部会に分かれて活動を行っております。「就学指導部会」は主に知的障害・情緒障害等といった障がいのある児童生徒を、「適応指導部会」は不登校等の児童生徒を対象に、その子どもの適切な就学について調査・審議するものです。

私は昨年度、ほぼ全ての部会に出席し、その活動を目の前で見てきました。その度に思うのは、子どもたち一人ひとりに適した教育環境を判断するために、こんなにもたくさんの大人たちが関わっていたのかということでした。特に就学指導部会では、一人の子どもに対して、就学指導委員と就学指導調査員が二人一組となって一緒に行動・観察するほか、それを外から観察する委員が複数おり、その他にも保健師など、本当に多くの方々にご協力をいただきました。適応指導部会でも同じことが言えるのですが、委員の方々は、限られた時間の中でその子のことを真剣に考えてくれて、観察後の協議の場でも熱心に議論をする姿には、本当に毎回頭が下がります。

就学指導部会の委員は、就学指導委員会としての判断がなされた後、保護者にその旨をお伝えし、説明や相談を行うといった役割も果たしています。判断とは、その子の教育環境として「特別支援学校」や「特別支援学級」が適切なのか、または通常学級で様子を見るのがいいかなどの就学先を示すものですが、実際の就学にあたっては、保護者が最終的な決定をするため、保護者の意思と就学指導委員会の判断が異なる場合があれば、互いに悩み、迷いながら結論を出していくことになります。

昨年度から携わってきたこの就学指導委員会ですが、そうした保護者の葛藤などもたくさん見てきました。学務課で学籍手続きを行っているため、最後の最後まで悩む保護者の方から相談を受けることもありました。そのときは、就学指導委員会の判断を尊重しながら、保護者の気持ちにできるだけ寄り添い、丁寧に対応するよう心がけました。

子どもの成長や保護者の思いを考えながら今までやってきたつもりですが、まだまだ自信はありません。しかしながら、これからも子どもたち一人ひとりのために、より適した教育環境を勧められるよう、使命感をもって業務を遂行したいと思います。

お客様の為に

野村證券株式会社函館支店　加藤瞳（平成18年卒）

私が大学を卒業してから四年が経ち、社会人五年目となりました。

学生時代は、自分自身、教職を目指したいのか、民間企業に就職したいのか全くわからず、非常に悩んでいたことを思い出します。ただ頭の中で一人悩んでいるだけでは何も始まらないと思い、どちらも経験してみようと考えました。教育実習と企業実習の両方を経験できる環境を与えて頂き、本当に感謝の気持ちで一杯です。

教育実習と企業実習を経験させて頂いた中で、函館に住む多様な年齢層の方々と接していく内に、函館に根づき、函館を活性化できる仕事に就きたいと強く願うようになりました。

就職活動は、視野を狭くしてしまわないよう業種は絞らず、説明会やセミナー等、積極的に参加しました。そして徐々に業種を絞っていき、最終的には野村證券函館支店で働きたいと思い、入社することができました。

谷野村證券には転勤を伴う全域型社員というものと、転勤を伴わない地域型社員というものがあります。私はもちろん、転勤を伴わない地域型社員を選択しました。地域型社員は地域に根づき、お客様と長いお付き合いをすることが可能になります。

私達は目に見えない、形の無い商品を日々お客様にご提案しております。そして、お客様の大切なご資産をお預かりし、運用をさせて頂いております。だからこそ、お客様と私達の信頼関係が非常に重要になってきます。

お客様との信頼を構築するには、お客様の事を良く知り、また、自分自身の事を良く知ってもらう必要があると思います。その為に、電話や訪問などでお客様と積極的にコミュニケーションをとるようにしています。お客様との会話の中から学ばせて頂くことがたくさんあり、お客様がいらっしゃるからこそ、自分自身成長していくことができるのだと思います。

また、お客様との信頼を構築する為に日々勉強することも心掛けています。金融のプロとして、質の高い資産運用のご提案、付加価値の高いサービスをご提供することができるよう、資格取得はもちろんのこと、自己啓発にも取り組むようにしています。

お客様のニーズを的確に把握し、お客様のご意向に合うご提案をすることで、お客様からありがとうと言って頂けた時や、お客様の笑顔を見ることができた時は、本当に嬉しく思い、この仕事をしていて良かったと心から思います。それと同時に、お客様から信頼されているということに責任を感じます。

日々変化している中で、それに対応できるよう努力していく必要があると思います。常にお客様の事を第一に考え、お客様の為に行動していきたいです。お客様から信頼され、函館に貢献できるよう日々精進していきたいと思います。

支部だより

札幌支部便り
～組織的活動をめざして～

札幌支部長　近野　豊
（昭和51年卒　札幌市立新琴似西小学校長）

街路樹のライラックが咲く六月、街中に煌びやかな衣装を纏った多数の集団を目にします。今年、第十九回目を迎えた「よさこいソーラン祭り」の一コマです。翌週に行われる北海道神宮祭（通称「札幌まつり」）が終わると、道都札幌に夏がやってきます。

この時期になると、正岡子規の俳句「瓶にさす　藤の花ぶさ　みじかければ　畳の上に　とどかざりけり」が頭に浮かびます。桜の後を追うように咲き始める五稜郭公園の藤、紫色の花と何とも表現のしようのない甘い香りで、藤棚の下を通る人々を別世界に誘ってくれました。ふるさと函館を離れて三十四年、今でもその色と香りをしっかりと覚えています。

四月十七日に行われた平成二十二年度札幌支部総会において、支部長を仰せつかりました。本年、八十二年目を迎える札幌支部の歴史は、人の営みそのものであります。本年度は五名の新卒者が札幌採用となり、それぞれの勤務校で活躍している様子が聞こえてきています。また、管理職が三十五名となり、充実した事務局体制を構成することができました。

本年度の主な活動は次の通りです。

四　月　支部総会・懇親会
五　月　管理職会議
六　月　第一回会員研修
「校長力・教頭力
・教師力の向上を図る」
八　月　第二回会員研修
市教委幹部の講話
十　月　同期代表者幹事
十二月　忘年会（年末教育懇談会）
一　月　新春麻雀大会
二　月　勇退者を囲む会
三　月　昇任者を囲む会
前　田中隆支部長（昭和四九年卒）が大切にしてきた「創造し活動する夕陽会～組織的活動をめざして～」を継承し、八百八十名（ＯＢ会員四八六名、現職会員三九四名）の会員にとって〝心のふるさと〟となる支部活動を推進していきたいと考えています。

さて、六月十九日に函館国際ホテルで行われた「平成二十二年度夕陽会総会」において、来年度の総会が札幌で開催されることが決まりました。前回は平成十三年でしたから、ちょうど十年振りとなります。前回は、これを機会に各同期会が数多く開催されそうです。

札幌支部としては、本部と道央ブロック（石狩・小樽・後志・空知）と連携を取りながら進めていきたいと考えております。

平成二十三年六月十八日
札幌に「夕陽魂」を轟かせましょう。

帯広支部便り

帯広支部長　河合昇男
（昭和53年卒　帯広市立広野小学校長）

昨年度より帯広支部長を仰せつかり、二年目に入りました。支部役員の皆さんの支援をいただきながら、帯広支部のより活発な活動を推進していきたいと考えています。

帯広支部は、会員数が九十六名で、現職会員が六十三名、ＯＢ会員が三十三名となっています。現職会員のうち、二名は、十勝教育局の指導主事で、一名は十勝毎日新聞の記者です。教職会員は、六十名ですが、そのうち小学校は三十八名、中学校十五名、高校は四名、特殊教育が三名となっています。

この教職会員のうち、校長は一名、教頭が三名で、管理職会員が非常に少なくなっており、また、中堅教員で、管理職を志す者がゼロという状況にあり、その発掘も一つの課題となっています。

さらに、同窓意識の低下にともなって、管理職以外の現職会員の会費納入率が非常に低く、その対応も緊急の課題となっています。

これらの課題を克服すべく帯広支部の取り組みの一部を紹介したいと思います。

帯広支部では、年度初めに異動者の把握を行い、現職会員並びにＯＢ会員の正確な名簿を作成しています。そして、ＯＢについては、七つの班で組織し、その一つ一つの班に現職会員を連絡担当者として配置し、現職とＯＢとの連携の強化に努めています。さらに、年に一度、役員が全ＯＢ宅を訪問し、一人一人のＯＢ会員の近況をうかがいに行っています。

現職会員については、各学校に学校幹事を置き、その学校幹事を通して支部からの連絡や文書などの配布の徹底を図り、そのことが会員の同窓意識の喚起の一助となることを願っています。

また、女性部や青年部を組織し、会員が活動に参加しやすい組織作りに努めています。

そのような中で、今年度から十勝支部との組織合体に向けて新しい取り組みを始めようとしています。

会員数の減少、会費納入率の低下、会員の同窓意識の低下などは、十勝支部でも大きな課題であり、それに対して帯広・十勝が連携して取り組む中で、組織の合体を一つの方向として模索していこうというものです。

しかし、現実に取り組んでいく場合、越えなければならないハードルも多々あり、簡単なことではないとは認識しています。

ＯＢ会員の皆さん、そして、現職会員の皆さんの心情や思いをしっかり把握し、そして、大切にして、全会員からご理解をいただけるような形でこの合体が実現されるよう、十分、時間をかけて進めていきたいと考えています。

前納会費納入会員名簿追加分

三橋誠司　北広島　昭46
山本敏明　北九州　昭48
横山　悟　余市　昭47
鳥井政夫　様似　昭47
川島富樹　上ノ国　昭49
佐野和人　札幌　昭42
亀田光男　札幌　昭47
今村裕昭　苫小牧　昭47
大野敏隆　利尻　昭48
川端則明　苫小牧　昭48
神尾和夫　函館　昭48
笹木哲雄　函館　昭48
伊藤治久　芽室　昭47
大西正光　函館　昭48
梶　利明　函館　昭47
辻口喜廣　函館　昭47
中西英明　函館　昭48
三島俊博　函館　昭47
古俣　敏　北斗　昭48
水間良光　函館　昭47
長谷　恵　函館　昭47
高垣孝二　函館　昭47
滝花保美　函館　昭47
長谷川吉秀　函館　昭47
田中　寛　函館　昭47
高橋英雄　函館　昭47
附田誠一　函館　昭47
坂上範夫　函館　昭48
橋本恵美子　札幌　昭51
保坂重子　北斗　昭47
山形英幸　函館　昭48
横井　明　函館　昭47
石戸大機　函館　昭42

（平成二十二年七月五日現在）

夕陽会員訃報

小倉　太一氏　昭18　19・12・15
札幌市北区屯田4の7の6の39　サダ氏
小祝　達氏　昭8　22・2・15
福岡県飯塚市大字横田774の1の101　久子氏
工藤　陽司氏　昭52　22・3・6
函館市中道2の42の16　教子氏
四十物谷久義氏　昭8　22・3・9
江差町中歌町90　エミ子氏
佐藤冨二男氏　昭16　22・3・15
函館市白鳥町20の24　健一氏
吉野　弘文氏　昭36　22・3・20
函館市鍛治1の51の7　直樹氏
中野　哲氏　昭31　22・3・26
札幌市清田区美しが丘5の6の5の21　英子氏
大越　場光教氏　昭26　22・3・29
帯広市西20南4の13の18　敬子氏
澤口　正男氏　昭18　22・4・22
函館市中島町20の12　睦氏
渡邊　洸夫氏　昭8　22・5・1
函館市赤川1の1の24　矩夫氏
島貫　雄一氏　昭32　22・5・20
函館市神山3の24の10　淳美氏
安本　文康氏　昭34　22・6・13
函館市日吉町3の9の6　知加子氏
川又　和夫氏　昭23　22・6・18
函館市鍛治1の40の6　茂雅氏
長澤（佐藤）育子氏　昭34　22・6・22
函館市五稜郭町3の7　三郎氏
富澤　嘉平氏　昭22　22・6・27
函館市富岡町1の56の7　キリ氏

（平成二十二年七月五日現在）

前納会費制度ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品（人民蕃殖の白扇）の贈呈
　その他不定期発行の記念品等の贈呈
②夕陽会報（年三回発行）と会員名簿（隔年発行）の本人への贈呈
③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用

前納会費の額は、卒業年次により異なっております。

次の四段階になっております。

①大正年代の卒業生　五千円
②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者　一万円
③同じく昭和五十一年以降の退職者　二万円
④平成元年以降の退職者　三万円

ご希望の方は、本部（附属小学校内財政部担当）へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報二〇一号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、復元された『箱館奉行所』の完成の写真です。

五稜郭内に復元工事を進めてきておりましたが、この度完成し、七月二十九日のオープンセレモニーに続いて入館・見学ができるようになります。

箱館奉行所は、幕末の日米和親条約で箱館の開港が決定し、ペリー一行が港湾調査等のために来航したことをきっかけに、それまで元町公園付近にあった奉行所を外国船の砲撃が届かず、亀田川の清流を引き入れやすい五稜郭の内部に移設しました。その後、明治四年に解体され、郭内の様子がわかりづらく難航しましたが、復元ができました。

◆各支部での研修会やブロックでの活動が盛んになってきております。

開催を予定されている支部あるいは、ブロック等は本部事務局に早めに連絡をお願いいたします。

◆情宣部の今年度のスタッフは伊勢　昭（昭49卒柏野小長）榊　博之（昭58卒柏野小頭）三津橋　淳（昭61卒椴法華小頭）浦上修一（昭63卒柏野小）です。どうぞよろしくお願いいたします。

（情宣部長　古川　邦彦　記　昭56卒）

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806
函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号（0138）46―2235
夕陽会専用（0138）34―5520
FAX番号（0138）47―7376

題字　文化勲章受章者　金子賢蔵（鷗亭）氏（昭4卒）